

授もあつた様である。台湾大学の医学部で敗戦後台湾語で講義してみた(結局失敗した)のどこか似ている様に思われる。

曰く、優秀論文は欧文に翻訳して紹介する途があると。優秀論文であるかないかを土木学会が直ちに常に正しく判断できると土木学会の関係者は考えておられるのだろうか。曰く、提出者の英文がまずいのであるだろうと、本職の外人が書く様な英文はどの途日本人には出来ないこと、わかりさえすればよい。英文の巧拙は論文内容に直接関係がない。曰く、組版代が高いと、それなら次善策としてタイプ原稿を写真版にすればよい。和文組より却つて安くいく。

本文が有力な識者の眼にとまり。土木学会が会の本来の使命にかんがみて直ちに欧文原稿を受付ける様になることを願つてやまぬ。

(谷本勉之助)

会員であり、卒業と同時に会員に轉格され或は先輩の徳源により入会する機会に恵まれていると云えます。

現在の土木学会全会員の学歴別にみた統計がどんな数字を示すかは知りませんが、私の挙げた1例が会誌編集上、些少でも参考になれば幸です。

(1) この会誌が書架に飾られることを願うか、現場の事務机の上に乗せて持ち込まれて手垢によごれて多く読まれることを望むか。

(2) 会員が会誌を決定し、また、会誌が会員を決定するという推論と、大衆化要望へいかに応えるべきか。等……

最後に希望として掲載論文等に補足的註書がほしいと思います。読者の理解を援けること大と信じます。編集部の方が付けられるのが適当と思います。多少デイスカッションの役割も果し得るからです。

(米本 実)

随 想

土木学会の在り方について、特に会誌の内容については異常の関心が拂われている様です。このことは地方在住会員としては、会誌を通してのみ学会との繋りを保っている実状から、尤もなことと謂えましよう。

会誌の程度を高めるべきか、低くすべきか或は現状維持で進むかはなかなか難かしい問題だと思ひます。

現に私の勤めて居る土建会社に例をとつてみますにこの会社には土木関係技術者としては工業学校以上の学校で土木を専攻卒業した者が 18 名おります。

- 大学卒業者 3人 16.7%
- 専門卒業者 7人 38.9% (修業年限1年を修了したもの2名を含む)
- 工業卒業者 8人 44.4%

これを年令別、学歴別、土木学会会員有無についてみますと次の通りであります。

年 令	人員	学 歴			会 員 有 無		
		大学卒	専門卒	工業卒	大学卒	専門卒	工業卒
20才未満	2	0	0	2	0	0	0
20才~30才	8	1	4	3	1	2	0
30才~40才	5	2	1	2	2	0	0
40才~50才	1	0	0	1	0	0	0
50才~60才	2	0	2	0	0	2	0

この例の場合では、現に会員である者は7名(18名に対する割合 38.9%)で、然も大学、専門学校出身者に限られて居ります。

従来から大学、専門学校出身者は概ね在学中は学生

寄 書

路盤の支持力に関してアスファルト コンクリート舗装の厚サの直接決定法<sup>(1)</sup>

2'×2'×1'の函(soil box)に土壤を一定の水分を合ませて詰め、一定の重サの蟻で搗き固め、一定の固サにする。試料から水分が逃げない様パラフィン紙及び金属製蓋をして防ぐ。

先端にゴムの附けてある3種の試験頭(表-1)に荷重を各3分毎に毎回 10 lbs/sq. in づつの割合で加え、その度毎に沈下量を測る。沈下が 0.5" で試験を終了する。

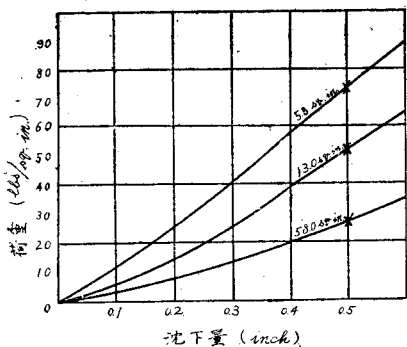
表-1

直 径	面 積	円周, 面積比
2.7吋	5.8吋 <sup>2</sup>	1.47 P/A
4.1"	13.0	0.99
8.6"	58.0	0.46

路盤の上に 22"×22", 厚サが 2", 4" 及び 6" 等の各種の舗装体を載せて同じ方法で試験を行う。この時舗装板の周囲が持ちあがる事を防ぐ爲金具で型枠に固定する。

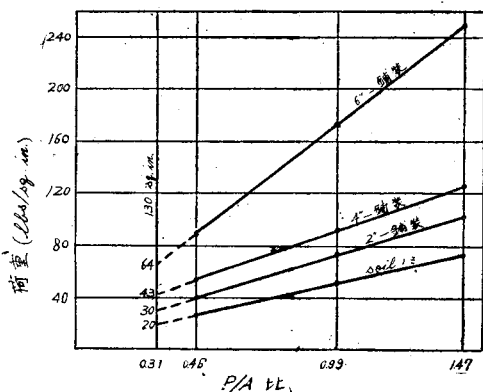
以上の試験から各種試験頭に付應力-歪曲線(stress strain curve)を画く。圖-1はある種の土壤について試験したものを示す。

圖一



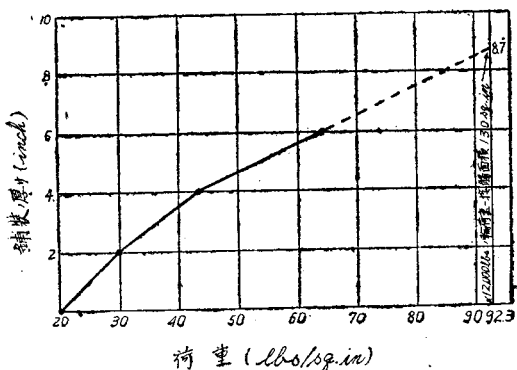
次に横軸に円周，面積比 (P/A)，縦軸には圧力強サ (lbs/sq.in) をとり，0.5" の沈下量に相当する圧力強サをプロットして，これを結べば直線となる (2) (圖一2)。

圖二



トラックの車輪荷重 P とタイヤの路面接触面積 A が與えられれば，圖一2 から圖一3 を画いて舗装厚を求めることができる。

圖三



(1) P. Hubbard, Research Series No. 7. Asphalt institute April 1, 1941

(2) W.S. Housel, University of Michigan, Engineering Research Bulletin No.13, Oct.1929.

質疑応答

会員から質疑が二、三あるのですが解答が遅れて本号に掲載出来ず申し訳ない次第であります。今后はもつと迅速に解答を致す積りですからどしどし御速慮なく御送り下さい。(編集部)

上下水道研究発表會開催

昭和 25 年6月中旬2日間東京に於て水道協会主催で上下水道の経営，技術及び衛生に関する事項の研究発表會が開催される予定である。研究発表申込者は講演要旨を簡単に認め5月末日迄に水道協会に申込むこと。

正 誤 表

35卷1号

頁	行	誤	正
43	右下から7	池本泰次	池本泰兒
	" 6	神尾宇治	神尾守次
	" 5	原口常次郎	原口忠次郎
40	左上から15	國際理論應用機械学会	國際理論應用力学学会

(成岡昌夫氏から御注意を頂きました。紙上で厚く御礼申し上げます。編集部)

日本規格協會の事業について

工業技術廳の下に規格の普及紹介にあつてゐる同會では，工業標準化法の施行に伴ひ土木界にも関係の深い各種規格図書，定期刊行物等(外國規格もある)を発行しているが，事業運営のため会員を募集している。御希望の方は下記へ問合せのこと。

東京都千代田区三年町特許廳内 振替東京 195146 維持会員1口 半年2500円以上，通常会員1年500円

イヤリング

米國の土と日本の土とが非常に違ふ事は我々が以前から注意してゐた所であつた。過日我々の研究室のK君が映画イヤリングを見に行つて発見をしたと言つてゐるのを聞くに，“子鹿が林の中を歩いている時埃が立つ”と言う。日本では林の中の土は濕つていて歩いても埃りは立たない。

これから見ても米國の土は 余程乾いてゐるに違ひない，米國では最適含水率を與えるのに水を撒くと言うが，日本ではどうして乾かすが大問題である。我等K君の説に傾聴し，彼の慧眼に敬服した。(最上生)

土木技術者續々渡米す

土木技術者の第一陣として電力視察團の一行に加わり渡米した市浦繁，野瀬正儀の両氏は去る4月5日空路無事歸國されたが，引続き鹿島建設常務取締役当学生会理事種谷実氏は4月14日空路で，又東京都水道局給水課長岩崎瑩吉，日本鋪道常務取締役名須川秀二，高野建設社長高野政造の3氏は4月21日夫々出発された。運輸省港灣局比田正氏は5月11日出発，その外5月早々出発の予定であつた経本資源調査會安藝峻一，建設技監稻浦鹿藏の両氏は5月24日航路渡米されることになつた。

**DOBOKU-GAKKAISHI**  
**VOL. XXXV, NO. 5, MAY. 1950**  
(JOURNAL OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS)  
**C O N T E N T S**

<b>Papers</b>	<b>Page</b>
Scientification of Administration.....	S. Suematsu..... 1
Some Issues Regarding to Rationalization of the Construction Industry in Our Country.....	Y. Miyazawa..... 3
Terrestrial Photogrammetry and its Application to Civil Engineering (I).....	T. Maruyasu..... 8
On the Corrections for Deflection Records of Structures.....	K. Mise .....14
On the Design of Double Filtration.....	T. Yasuda .....18
About the Theoretical Inclination of Future Cement Grouting.....	K. Kugimiya.....23
Studies on the Thin Sheet Flow [1st. Report] (Abstract) .....	T. Ishihara, Y. Iwagaki & T. Goda.....27
On the Excluding Efficiency of Settling Reservoir (Abstract).....	T. Goda.....28
<b>Abstracts</b> .....	30
<b>Reference Data</b> .....	35
<b>Lecture</b> .....	42
<b>News</b> .....	44
<b>Voice</b> .....	47

**O F F I C E**

NO.4 2-CHOME, OTE-MACHI CHIYODA-KU, TOKYO, JAPAN.

**編 集 後 記**

休日続きで日頃の疲れも回復し、愈々夏の活躍へ期待しておられることと存じます。新緑5月の候、初夏の感觸は明るい光で私達をつつみます。

新日本誕生の今日、学会も総会、学術講演会と大いに活躍します。会員諸兄におかれても力強く後援されんことをお願いいたします。

次号は、吉田会長の会長講演、藤井眞透氏「開発指数と道路密度」谷藤正三氏「路盤に関する土質力学的研究」藤田博愛氏「堰堤コンクリートの自然熱放散並に人工冷却について」岩垣雄一「網代港埋没に関する飛砂の影響について」等の内容で6月中旬発行の予定です。

尙、本号の担当は報文——米元、田中委員、資料——八十島、奥野委員、ニュース——長谷川、山田委員でした。

昭和25年5月25日印刷	土木学会誌	定價 80 円
昭和25年5月30日発行	第35卷 第5号	
編集兼発行者	東京都千代田区大手町2丁目4番地	中 川 一 美
印刷者	東京都港区溜池町5番地	大 沼 正 吉
印刷所	東京都港区溜池町5番地	株式会社 技 報 堂
~~~~~		
発行所	東京中央局区内 千代田区大手町2丁目4番地	電話 丸の内(23) 3945 番
	社 團 土 木 学 会	振 替 東 京 16828 番